

エア・リキード、水素燃焼技術でサステナブルなガラスびん生産を支援

日本エア・リキード合同会社（本社：東京都港区、社長兼CEO：牧原康二、以下「日本エア・リキード」）は、日本山村硝子株式会社（本社：兵庫県尼崎市、代表取締役社長執行役員：山村昇、以下「日本山村硝子」）および株式会社山村製壺所（本社：兵庫県西宮市、代表取締役社長：浅野公平、以下「山村製壺所」）と共同で、ガラスびん溶解炉の燃料の一部を水素に置き換えたびんの生産に成功しました。

この試験的な取り組みは、ガラスびんの溶解炉としては現在日本国内唯一の酸素燃焼炉を有する山村製壺所において実施されました。日本エア・リキードは、燃焼プロセス用の水素ガスと水素燃焼に特化したエア・リキード独自のバーナーを提供しています。日本山村硝子、山村製壺所、日本エア・リキードの技術を結集することで、従来の酸素燃焼により生産されたびんと同等の品質を保ちながら、CO₂排出量の削減を実現しました。

ガラス産業における脱炭素化は喫緊の課題であり、燃焼時にCO₂を排出しない水素の活用が期待されています。日本エア・リキードは、これまで酸素燃焼技術と最適なガス供給ソリューションを組み合わせることで、お客様の燃焼効率向上とCO₂排出量削減に貢献してきました。燃料を水素に置き換えることにより、ガラス製造における脱炭素化を推進します。

なお、今回の取り組みを通して生産されたびんは、サントリー株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：鳥井信宏）のワイン「SUNTORY FROM FARM 登美の丘 赤 時のかさね（CO₂削減びん使用）」に採用され、大阪・関西万博会場レストラン「水空（SUIKU）」にて販売されます。

日本エア・リキード 社長兼CEO 牧原 康二のコメント「日本エア・リキードは、長年にわたり酸素燃焼技術のリーディングカンパニーとして、お客様の燃焼効率向上、脱炭素化の取り組みを幅広い技術ソリューションで支援してまいりました。このたび、日本山村硝子様および山村製壺所様の協力により、ガラスびん製造における水素利用の新たな可能性を示すことができ、大変喜ばしく存じます。エア・リキードの包括的な水素に関する知見が、お客様のサステナビリティに向けた取り組みに貢献できたことは、大変意義深いものと考えます。」

日本におけるエア・リキード

日本エア・リキード合同会社（ALJ）は1907年に創業、100年以上にわたって日本の産業の発展に貢献してきました。ALJは約2,000人の高度な技能を持つ従業員を擁し、エレクトロニクスなどの産業分野の企業に窒素や酸素を供給し、お客様と連携して問題解決や共同研究を行っています。

お問い合わせ

日本エア・リキード合同会社 広報本部

ww-aljcommunications@airliquide.com

03 - 6414 - 6728

産業と健康に技術とサービスで貢献するガス事業の世界的リーダーとして、エア・リキードは全世界60カ国で66,500人の従業員を擁し、400万以上のお客様と患者の皆様にサービスを提供しています。酸素、窒素、水素などは、生命、物質、エネルギーに欠かせない必要不可欠な小分子であり、エア・リキードの科学領域を具現化するものとして、1902年の創業以来、当社の研究領域と事業活動の中心活動の核となってきました。

エア・リキードは、未来に備えつつ今日アクションをとることを戦略の中心に据えています。戦略プラン「ADVANCE」により、財務的業績目標と財務を超えた取り組みを組み合わせた包括的なパフォーマンスを目指します。新しい市場をとらえ、柔軟さと強さを兼ね備えたビジネスモデル、技術知見に立脚したイノベーション力を生かしてまいります。エア・リキードは気候とエネルギー転換、とりわけ水素エネルギーに寄与するソリューションを開発し、医療、デジタル、ハイテク分野に注力してまいります。

2024年の売上高は270億ユーロを超えました。エア・リキードは、ユーロネクスト・パリ（A部）に上場されており、CAC40ならびにCAC40 ESG、EURO STOXX 50、FTSE4Good、FTSE4Good Indexの構成銘柄です。

関連写真

